

交野市 水安全計画

より安全な水道水供給のために

はじめに

近年、安全性に対するニーズの高まりや、水道水質を取り巻く環境が変化し、より徹底した水質管理が必要となっています。

これらの課題に取り組むため、水源から給水栓までの水道システム全体の危害（リスク）を抽出し、それぞれの過程で危害事象を把握し、管理対応策を整備するリスクマネジメント手法である『交野市 水安全計画』を策定しました。

水安全計画を策定することにより、危害が発生したときに迅速に対応し事故を防止することができ、これまで以上に安全で安心な水道水の供給が可能になります。

水安全計画とは？

『水安全計画』は、市民の皆さまに水道水を安心して飲んでいただけるよう、安全な水の供給を確実にする仕組み（マネジメントシステム）を構築するものです。

水安全計画の主な要素

危害（リスク）の洗い出しと分析

過去の水質事故事例、想定される事故などから、水道水の安全をおびやかす可能性のあるリスクを洗い出し、影響などを分析します。

マニュアル、リスクの体系的な整理

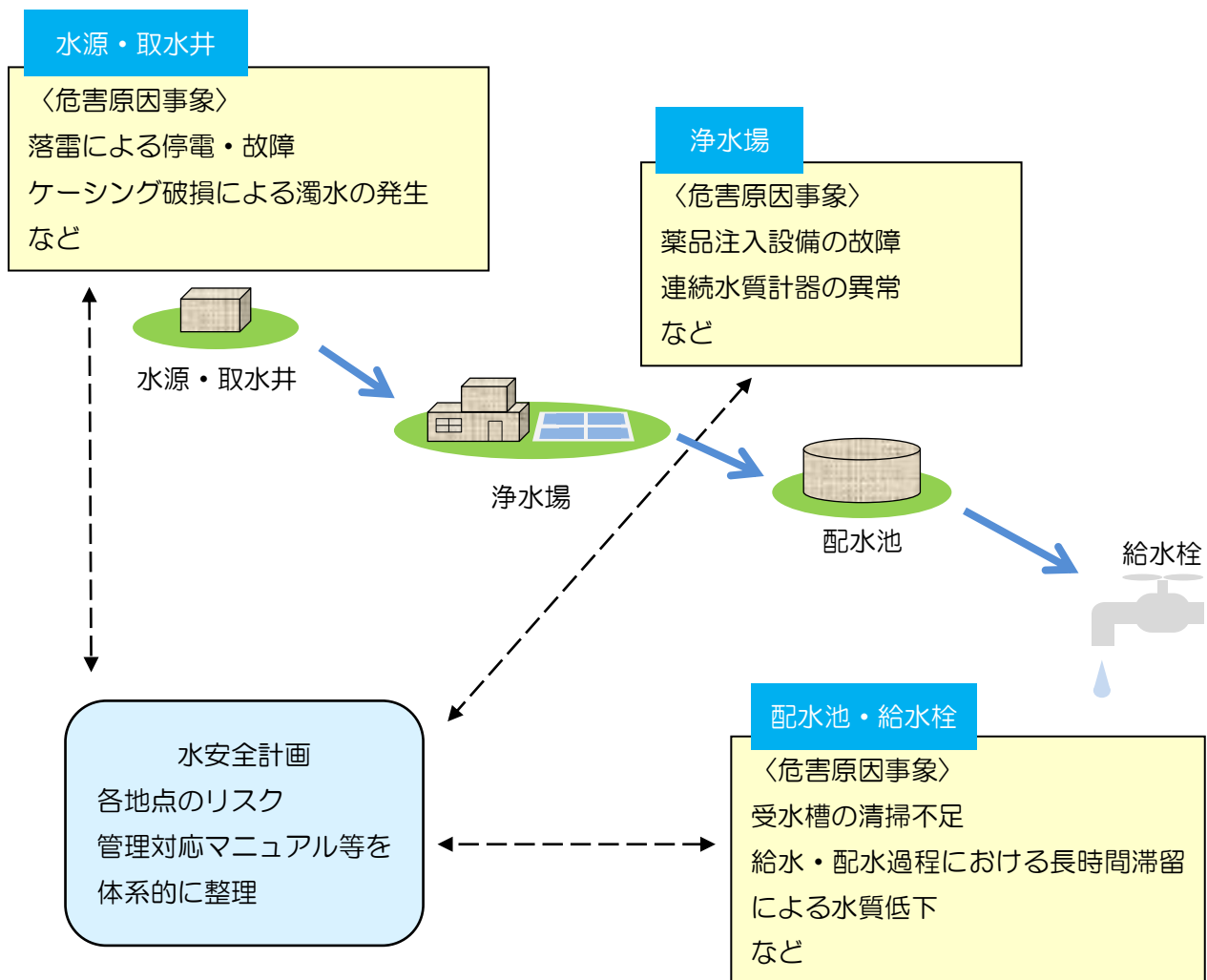
リスクの発生防止、影響の軽減のための手段を設定し、関係部門共通の対応マニュアルを作成します。

PDCA サイクルによる継続的なレベルアップ

PDCA サイクルを用いたマネジメントシステムにより、継続定期的に計画や対応の見直し・改定を行い、水道水の信頼度をさらに向上させます。

リスク分析と運転管理手法の体系的な整理

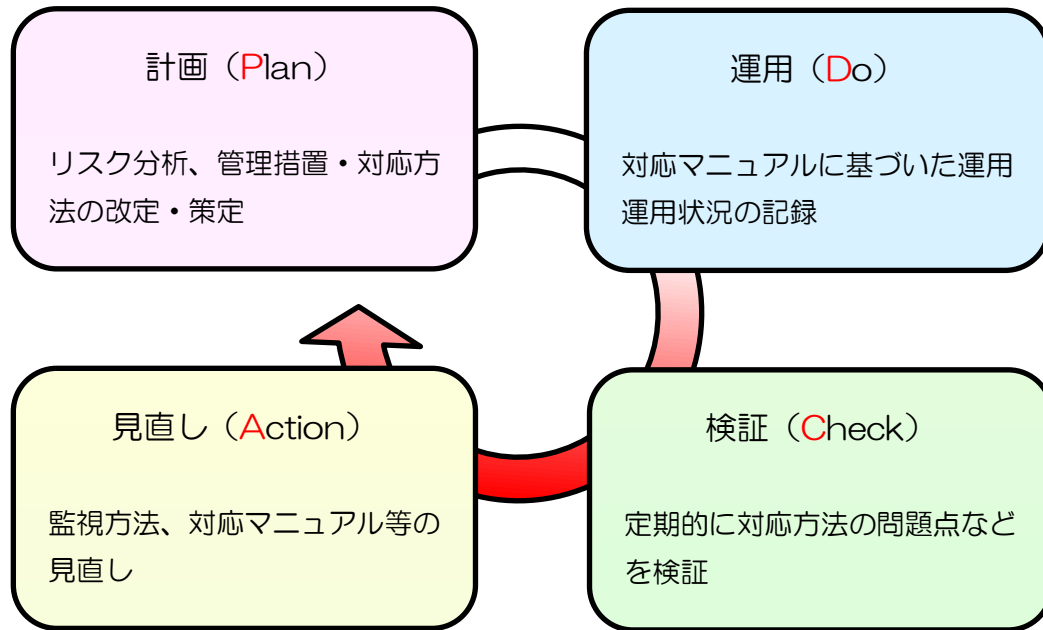
『水安全計画』では、水源から蛇口までの水道水質に影響を与えるリスクとして、101のリスクから発生する214項目を拾い出し、それぞれの発生頻度と影響度を分析しました。これらのリスクに対し、現在運用されている定常時の対応方法、非定常時の対応方法、また、新規に取り上げたリスクの対応方法について、その有効性、適切性を確認し整理を行いました。



リスク分析と運転管理マニュアルの体系的な整理

継続的な PDCA サイクルによるレベルアップ

水道水の安全性に係る様々な要因や条件は変化します。体系的に整理したリスクマネジメントに基づき、将来にわたり安全性を維持していくためには、『交野市 水安全計画』を継続的に検証し、必要に応じて見直しを図ることが必要です。こうした PDCA サイクルによって、リスクマネジメントの継続的なレベルアップを図ります。



継続的な PDCA サイクルによるレベルアップ

水安全計画がもたらす効果

1. 安全性の向上

水源から給水栓までの間に存在するリスクに対する安全性が向上します。

2. おいしい水の供給

きめ細やかな水質監視と、水質の状況に応じた浄水処理を連携して行うことにより、おいしい水の供給につなげることができます。

3. 技術力の維持・向上

対応方法のマニュアル化や継続的な見直しにより、高い技術力を維持し、さらに高めていくことができます。